

大治町教育大綱（案）に関するパブリックコメント（町民等意見募集）の結果について

「大治町教育大綱（案）」について、パブリックコメント（町民等意見募集）を実施したところ、以下のとおりご意見をいただきました。ご協力ありがとうございました。

1 募集期間

令和3年1月13日（水）から令和3年2月12日（金）まで

2 提出された意見

(1)提出数 2名

(2)提出方法 メール、郵送

3 提出された意見及び意見に対する町の考え方

番号	意 見	町の考え方
1	<p>外部講師を呼んでも良いので、以下の授業を取り入れて頂きたいです。</p> <p>① CAP (Child Assault Prevention) プログラム 子どもへの暴力防止、予防教育プログラムです。</p> <p>② 「性教育」を行って頂きたいです。</p> <p>③ 「法教育」を行って頂きたいです。 法律を勉強する「法学教育」とは違い、子どもたちに「法的な『もの見方』や『考え方』」を身につけてもらうための教育です。</p>	<p>いじめ・虐待・体罰・誘拐・痴漢・性暴力など様々な暴力から自分の心とからだを守ったり、性についての正しい知識を得たり、法的なものの見方や考え方を身につけていくことは、これからの社会を生きていく子どもたちにとって、大切なことだと考えています。</p> <p>頂いたご意見を参考に、教科の学習やキャリア教育、道徳などにおいて、子どもの実情に合わせて学校教育に取り入れられるよう、検討していきます。</p>
2	<p>①「可能性に挑戦する力の育成」について Society5.0の観点からも、昨今のコロナ禍の状況からも、オンライン授業の準備と拡充が不可欠と思われます。具体的なプログラムはできているのでしょうか。</p> <p>「アクティブ・ラーニングの推進、柔軟な教育システムの工夫、教</p>	<p>大治町では、令和3年1月より、町内4校全てに児童生徒一人1台のタブレット、校内の無線通信環境を整備しました。現在はタブレットをはじめとしたICT機器を活用した授業を進めています。現在は、タブレットの家庭への持ち帰りを想定してはませんが、校内でのオンライン授業を試行していきたいと考えています。</p> <p>アクティブ・ラーニングの推進、柔軟な教育システムの工夫、教員の力量</p>

員の力量向上の推進」などは、各教員の仕事として依拠するのではなく、教育行政として、人員確保や、授業以外の事務の軽減、部活指導の時間の軽減なども同時に行っていく必要があるのではないのでしょうか。

②「持続可能な社会を形成する社会の育成」について

コミュニケーション能力の向上については、外国語教育に特化されがちですが、国語力の向上のためにも、「スピーチやディベートのレッスン」「劇的表現力（演劇教育）」など、具体的な施策を提案されることを希望します。

③「生涯学び続けることのできる環境作り～健やかな心と体～」について

教員の働き方改革については、昨今、教員の長時間労働はまさに「ブラック企業」とまで言われています。特に部活動の顧問や練習指導は朝練・夕練・休日と、異常ともいえる長時間の負担を多くの教員に敷いています。①や②で求められている重要な「授業準備」などができる時間は皆無です。いい加減な授業になってしまっただけでは本末転倒です。

運動部に限らず、あらゆる部活動を「専門のインストラクター」とコラボして行うとか、または、「教員の数の増員」するなど早急に具体的対応をすることを強く求めます。この手当てが遅れば遅れるほど「教員の病欠」や「教員の長期欠勤」を生む土壌を作ることになります。

④「セーフティーネットの構築～地域で子どもを育てる～」について

児童の放課後対策の推進については、放課後児童クラブや、放課後子ども教室の計画的な整備をおおいに期待します。特に地域ボランティアやシルバーボランティアの協力は不可欠と思われます。たとえば戸外での鬼ごっこやコマ回しや缶蹴りなどの「遊び教室」、職人さん指導の「ものづくり教室」など、豊かな教育支援を期待します。

向上の推進については、必要な研修の実施、ICT 機器の活用、支援員の配置、子ども応援本部の活用などにより、③の教員の働き方改革との調整を図りながら推進していきます。

コミュニケーション能力の向上については、外国語教育だけではなく、豊かな表現力、情報発信力を身につけられるよう、学び合いを基本とした授業づくり、ICT 機器を活用した表現活動を基本に、様々な学校教育活動において、学校の特色を生かしながら育成をしていきます。

部活動については、教員の働き方改革の観点からも、適正な練習時間や期間を検討しているところです。地域の力を活用した部活動運営も長期的には、必要だと考えています。

現在でも、大治町内には多くの個人、団体が地域の子どものために活動をしていただいています。学校と地域の力を機能的に連携していくために、学校運営協議会、子ども応援本部を中心に、地域の方による教育支援を推進していきます。